NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。

ニュースレター　イデア

2014

6月号

つながり×ひろがる　　いちのせき市民活動センター

～もくじ～

2｜二言三言~一関市長と対談　一関市が目指す「協働のまちづくり」とは~

4｜団体紹介~**徳田八幡神社しめ縄会** ~（藤沢）

5｜地域紹介~**東山町　竹沢集落振興会** ~（東山）

6｜企業紹介~ **世嬉の一酒造株式会社**~（一関）

7｜センターの○○~**佐々木牧恵主任の一日に密着**~

フタコト×ミコト

第1回　二言三言　1/125,086

一関市が目指す「協働のまちづくり」とは

対談者　一関市長　**勝部 修** さん
聞き手　いちのせき市民活動センター　**小野寺 浩樹**

地域運営の主役交代

【小野寺】市の地域協働推進計画が策定され、いよいよ地域協働への本格的な動きが始まろうとしているところですが、一関市が目指す協働の在り方、目指すべき所についてどうお考えでしょうか？
【市長】目指すべきところは、地域運営の主役交代といった所でしょうか。古くは平安時代、平安朝ができたその時の主役は貴族でした。それから 400 年後、鎌倉時代の主役は武士に、さらに 400 年後の江戸時代はお役人が主役となったのです。それから 400 年たったのがついこの間。歴史的な 400 年単位の変わり目でもある今が、主役が市民へと変わる大きな転換期に来ているのではないかと感じているところです。
　協働の在り方については、例えると釣り。魚は補助金や事業。一昔前までは、行政は市民に、ほかから（国や県など）いっぱい魚をとってきたのでみんなで分けて下さいと差し上げることができました。住民は、釣りをしなくても魚を与えられ食べることができましたが、現在は配ることができる魚が少なくなり、これでは住民一人一人が十分に魚を食べることができません。そうすると住民は自分たち地域の力で魚を釣ろうとします。しかし、そのための釣竿がありません。だから今は、市は釣竿を貸し出します。でも、これからは釣竿だけではありません。どこに行けば魚が釣れやすいのか、いつ行けば釣れるのか、エサは何を使えば釣りやすいのか等、きめ細やかな情報を行政では提供し、少しでも住民に魚が行き渡るよう支援します。このように行政だけが主導を握り引っ張っていく時代からは脱却していく方向に向かっていくのですが、行政が住民に物事を押し付けあとは知らないよということはありません。みんなの情報を持ち寄り共有して、地域の情報力を高めましょうと、今まさにそこに踏み出していこうとしているところです。魚釣りの例え話のように、お互いの得意分野を出し合って、一つの目標に向かい一緒に歩き出すという考えが協働のまちづくりのベース（基本）です。

いまは、戸惑いの時期

【市長】協働のまちづくりと言っても、今までとは違う市の動きに戸惑いもあると思います。「なに！今まで役所でやってくれていたのに！」という声も必ず出てくると思います。しかし、その意識を住民と行政が一緒になって変えていかなければならないと思うのです。

【小野寺】そうですよね。戸惑いがあるという点は、本当に共感できるところです。公民館単位で地域協働体の設立を推進していますが状況は様々です。当センターでも、地域にお邪魔して懇談会や研修など地域の人たちの意見を聞く機会が多いですが、市の新しい施策が入ってきたことに、いったい何をするのか？何をさせられるのか？といった戸惑いの声が多いです。
　地域協働推進計画の中で特に大事にしていかなけ

ればならないことは、地域づくり計画だと感じています。この計画を各地域が創り上げるまでは大変な時期だと思いますが、計画が出来上がれば、地域にとっても行政にとってもすごく効率良い地域づくりができるようになっていくだろうと想像しています。

住んでいる人達で、自分たちの住んでいる地域を自由に描き、行政は住民の描いた絵を見ることで、ニーズ（必要）に素早く対応できる。そういった役割が明確になるとお互いが理解し合えるようになると思います。戸惑いがある分、戸惑いを解消するまで、今はお互いが我慢の時なのではないでしょうか？

【市長】確かにそうですね。ただ、いつまでも戸惑いの時間を長くしておくわけにはいかないと思います。そのために、行政側はいかにわかりやすく説明するかが説明責任だと感じています。説明責任とは、ただ単純な説明を住民にすればよいということではありません。市民にいかに分かりやすく伝えるか、いかに市民に受け入れてもらえるかというところまでいって、初めて説明責任を果たすことができるのです。協働の推進は、住民理解が不可欠であり、急がず焦らず、みんなで納得するように進めていきたいです。ただし、期限を決めて。

協働によって一関はどう変化していくか？

【小野寺】実際に、地域協働の力が発揮された時、一関のまちはどのように変わると思いますか？
【市長】すごく大きく変わると思います。協働のまちづくりをしていくという方向性は決まっているから、今は、そこに向かって動き出している段階。完成形になるのは何年先になるかはわかりません。しかし、自分たちが住んでいるところをこういうふうにしたいんだという住民の想いが積極的にあがり、地域の中で事業や取組みに優先順位を決めることが当たり前になったその時に、我々、行政が試される時期になると思う。今までとは違う視点で行政の役割が示されることになり、どんどん地域に職員が入っていくことになるだろう。地域住民や行政の職員のそれぞれの得意分野を活かし、お互いを理解しながら、一つの目的に向かって動いているでしょう。
【小野寺】地域が行政や制度をうまく活用していくために協働という手法があるということですね？住民と行政が一つの課題を共有して、その課題解決のために役割分担をしてうまくお互いに制度を活用して

いく…それが出来るか、出来ないかで協働の効果が違ってくるのかなと感じます。
【市長】そうそう、だからこそ時間がかかったり、途中で止まったりするんですよ。自分たちでやってみようということもあるだろうし、どうしてもここは行政の力を借りなければならないということもあるでしょう。もちろん最初から住民と行政が一緒になって行動することだってあるでしょうし。そして、行政の仕事は、住民が活動しやすいように支援することにもなっていくでしょう。
【小野寺】なるほど。住民の行動力、そして行政のコーディネート体制の確立が必要だということですね。

協働に向けた市民の行動について

【小野寺】本日のお話の中で、協働に向けた行政の動きとして、市民への説明責任と感じ取ることができたのですが、市民側についてはどのような行動をしてほしいと期待していますか。
【市長】まずは、協働に関心を持ってもらうことです。まだ市民は、行政が何とかしてくれるだろうという行政依存の傾向があると思います。頼られるのは非常に光栄なこと。しかし、そういうやり方では今の時代、物事が動かないのが現状。そういう時代なのです。行政側も住民に納得の上で、理解してもらえるよう説明をすることが大前提であって、住民の皆さんも説明に関心を高くもって聞いてもらいたい。これからの新しい仕組みをうまく活用するためにも、住民の関心力が一番重要だと感じています。

基本情報

【一関市】
住所：〒021-8501　一関市竹山町７番２号
電話＆FAX：0191-21-2111（代表）
Mail：shiseijyoho@city.ichinoseki.iwate.jp
HP：http://www.city.ichinoseki.iwate.jp

紙面で紹介しきれなかった部分は、「こぼれ話」としてブログに掲載しています。気になる方はチェック！
URL：blog.canpan.info/ichinoseki/category_15/1

徳田八幡神社しめ縄会

団体紹介

活動後に皆で乾杯！
三浦 初雄さん（右側一番奥）

～基本情報～
◆会長：三浦 初雄 さん
◆連絡先：〒029-3404
一関市藤沢町徳田字金山 49
◆電話：0191-63-2565

お酒を酌み交わし深める絆　田植えから始めるしめ縄作り

心を込めたしめ縄を　毎年地域にお届けします

藤沢町中心部の東側に位置し、穏やかな農村風景が多い徳田地区。この地域の鎮守として古くから崇拝され続けている八幡神社に毎年しめ縄を納め、制作の場を通じて会員同士や住民との親睦を深めている「徳田八幡神社しめ縄会」の活動をご紹介します。

今回お話を伺ったのは、団体の会長を務める三浦さん。団体立ち上げの立案者で、昭和 62 年の発足以来 27 年間会長を務めるしめ縄作りのベテランです。現在の会員は、徳田地区の男性を中心に 24 名の方々で構成。当初の団体の目的は八幡神社へしめ縄を奉納することでしたが、活動が口コミで広がるにつれ個人からの注文が増え、今では毎年約 30 本のしめ縄を作るようになりました。毎年、八幡神社のほか、地域内のお寺や施設、個人の方に大小様々なしめ縄をお届けしています。

年末は毎日活動

しめ縄作りは毎年 12 月 1 日から年末にかけ、八幡神社内で行います。会員の多くは現職者なので、活動時間はいつも夜。仕事を終え、夕食を済ませた順に集まり、21 時を目途にしめ縄作りにいそしみます。「奉納用のしめ縄を作るのに 6～7 人が必要だから、皆で協力しなければ出来ない作業です」と三浦さん。一年に一度（一か月）しか教えられないため、毎日練習を重ねても覚えるのに 2 年かかるとのこと。

完成したしめ縄は大晦日に奉納式を行い、併せて境内の清掃や飾り付けをし、新年を迎えます。元朝参りに訪れる方には、お札やお酒を準備するほか、会費を元手に餅やみかん、甘酒やビール、お神酒を振る舞う等の活動も行います。

香り米で商品開発

しめ縄に使われる藁は、地域の方から田を借り、田植えから脱穀まで会員が行います。「太いしめ縄を作るためには長い藁が必要」と、18 年前からは一般的な米から香り米（古代米）に変更。香り米の藁の丈は、長い物で 1.3m もあるため、「雨風を受けるとすぐに倒れるので管理に苦労した。倒れた時は、会員が出勤前（朝方）に集まり作業したこともある」と三浦さん。昔は米を備蓄し、古くなった米でも風味を楽しめるようにと香り米を混ぜて炊く家が多かったそうです。

ＥＭ（有用微生物群）菌発酵肥料を使い、低農薬で栽培された米は、「かおり米」として市内の直売所で販売しているほか、平成 15 年に商工会議所の事業を活用して開発した香り米酒「はぎのかおり」の原料に使用。はぎのかおりは香ばしい豊かな香りが特徴で女性にもオススメ。「良い米ができれば、良い藁ができると思います。より品質の高い米を沢山収穫し、皆さんに奉納できるようにしたい」と語ります。

毎回の活動後は、お酒を酌み交わし雑談するのが決まりごと。会社勤めで近所の方々が集まり話す機会が減っている今、団体活動での懇親会を楽しみにしている会員も多く、思い出のアルバムには会員の皆さんが笑顔で活動・交流している写真が沢山収められていました。

八幡神社にしめ縄を取り付けている様子

東山町　竹沢集落振興会

地域紹介

菅原 信吉 さん

～基本情報～

◆振興会会長：菅原 信吉 さん（2 期 4 年目）
◆東山田河津地区竹沢集落振興会は、61 世帯、222 人が暮らしている中山間部の集落です。竹沢集落では、地域住民が積極的に地域に参加し、活発な自治会活動が行われています。

会話も花咲く交流の場　竹沢の田園風景を色彩豊かに

皆が積極的に集い、参加する竹沢集落振興会

竹沢集落は、東山町幽玄洞から水沢方面に向かう途中にある、のどかで緑豊かな中山間地域です。竹沢集落には地域で大切に守られている菅公夫人の墓（一関市指定文化財）があり、地域活動では、全戸一斉自主防災、花壇作り活動等数々の取り組みを行っています。

今回お話を伺った菅原会長は、自治会長を務めて 2 期 4 年目。元々大工さんだった菅原さんのほか、竹沢地区には十数名の大工がいることから、田河津地区全体で毎年行われている山神社奉納演芸会の舞台建設を 5 年前から引き受け、隣集落との連携を図っています。

同集落は、実年会（じつねんかい）、女性部、父母の会、祝寿会（老人クラブ）で構成。実年会は、部落の草刈りや花壇作りのほか、山神社奉納演芸会の舞台音響等を担当。演目には毎年 30 名程の若者が積極的に参加しています。

女性部では、年配の方の豊富な知識を蕎麦・雑穀・野菜栽培に活かし、収穫物は地域の活動に使用。

活動写真を見せていただくと、各部が協力し、皆で地域を支えている姿が沢山写っていました。

全戸が一斉に取り組む　自主防災活動

自分達で地域を守る」が基本方針である自主防災は、振興会役員が中心となり、一人暮らしの老人宅の安否確認、防災訓練等を全世帯で取り組んでいます。

この自主防災は平成 17 年の 4 月に結成し、通報連絡班・消火班・避難誘導班・救出救護班・給食班で構成。東日本大震災で電気不足を経験したことから会で発電機を用意し、防災訓練では必ず使用方法を確認します。併せて、婦人部の炊き出し訓練、初期消火訓練のバケツリレーや田河津地区 1～8 区の本格的な応急手当訓練を実施。「活動を続けるうちに、誰もが真剣に取り組むようになった」と菅原さんは話します。

菅原さんは、集落内にお住まいの方の名前を屋号・年齢別に整理した名簿を作り、緊急時に安否確認を行えるよう備えています。空き家の増加や後継者不足等の課題解決と平行しながら、地域に住む皆さんが安心安全に暮らすため、これからも防災体制の強化を推進していきます。

花壇を通じて地域おこし
地区民の笑顔が生まれる場所

同振興会は、地域全戸の住民で花壇を整備しながら交流をはかり、他の地域から見学に訪れてもらえるような、花溢れる地域づくりを目指しています。

活動には約 60 名の方が参加し、植栽、水かけ、草取り作業を当番制で行っていますが、花壇は 700 ㎡もあるため水かけ作業が一番大変とのこと。4 月から種を蒔き始め、9 月には、サルビア、ダリア、マリーゴールドが綺麗に花を咲かせます。昨年は、「ＩＬＣいちのせき」の花文字をより多くの方に見てもらえるようにと花見台を設置しました。

「部落でできることは皆でやり、交流をはかりながら他の地域と連携したい」と菅原さん。今後も地域の方達と連携をはかりながら、花壇づくりに精を出し、綺麗な花を咲かせていきます。

「花づくりは、地域づくり」
皆で作り上げる竹沢の花壇

世嬉の一酒造株式会社

企業紹介

代表取締役社長
佐藤 航 さん

～基本情報～

◆代表取締役社長：佐藤 航 さん
◆連絡先：〒021-0885 一関市田村町 5-42
◆電話：0191-21-1144
◆FAX：0191-21-1143
◆HP：www.sekinoichi.co.jp

きっかけは、学生時代の友人の言葉
地域に根ざし 96 年　ビール造りで地域おこし

一関をビール造りで自慢できるようにしたい

一ノ関駅から北西 900m、旧一関図書館の裏に位置する世嬉の一酒造株式会社は、大正 7 年に建築された酒の民俗文化博物館や石蔵クラストンを始め、ビール工場やレストラン、酒の直売所等が敷地内に並ぶ酒造会社で、1957（昭和 32）年に株式会社化。

平成 7 年には、地元企業 5 社で協同組合「いわて蔵ビール」を立ち上げ、風味や微量栄養素を損なわないよう、ろ過、殺菌を一切行わない、新鮮で健康的なこだわりのビールを醸造しています。

今回お話を伺った代表の佐藤さんが今の道を志したのは、大学生の頃。大阪府や広島県出身の友人のお国自慢を聞き、「岩手は自慢できることがあるのに、それを認識していない(話さない)人が多いのではないか」と気付き、「岩手・一関をビール造りで自慢できるようにしたい」と決意。30 歳の時に一関へ帰郷し、平成 24 年の 4 月に 4 代目となる代表に就任。ビールの開発・醸造を行いながら、地域の方々が、より世嬉の一に気軽に立ち寄れる環境作りを目指しています。

世界で評価されていた 一関市の食材

同社が醸造するビールの中でも、特に地元食材を使ったビールは多くの品評会・大会で金・銀・銅賞を受賞しています。

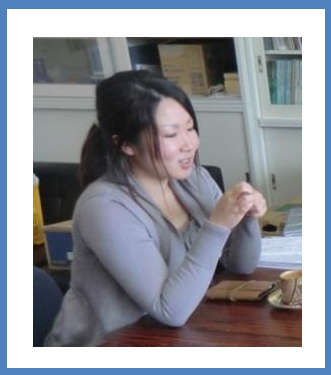
濃厚で味に奥行きがある「オイスタースタウト」は、陸前高田市産の牡蠣を使用しており、アメリカやシンガポール、アジアへ輸出。柑橘系の味がする「ジャパニーズハーブエール山椒」は、新鮮館おおまちで取り扱っている山椒を使用しており、共に国際大会で金賞を受賞しています。「『世嬉の一で造ったビールが世界で評価されているのは、地元食材が美味しいから』ということを地域の人達に知ってもらい、外の地域で『一関はいい所だよ』と語れるような商品づくりができればいいですね」と佐藤さん。

また、佐藤さんは、夏に行われている「全国地ビールフェスティバル in 一関」の実行委員を務めています。今や「日本一楽しい野外のビールイベント」と言われ、海外からもファンが集まりますが、その集客の理由は料理にあります。

一般的なビールイベントは、主役となるビールと相性の良いハムやチーズ等のおつまみ系の料理を出しますが、一関では料理の出展要項に「地元食材を使うこと」と定め、必ず一関市内の企業から材料を仕入れるという規則を作りました。「値段は高くなりますが、地元の食材が美味しいから人が集まるんです」と佐藤さん。昨年は、天ぷら蕎麦まで販売されたということには驚きです。

食を強化するという方針は、地ビールフェスタを大人だけではなく、子どもも含め家族全員で遊べるイベントにしたいという想いが込められています。「子どもが騒ぎ、喜ぶ表情を見て大人も笑顔になる。まちおこしのイベントは、そういったことも大切ではないでしょうか」と話します。

佐藤さんは、「僕らはまちと共に生きていく企業です。一関を盛り上げていかないと、世嬉の一も盛り上がりませんので、これからも商品づくりやイベントを通じて地域を豊かにし、市外の人は『一関はいい所だ、また来たい』と感じ、地域の方は『一関っていい所だ』と自信を持って外に発信できるようになってほしい」と笑顔で語ってくれました。



＼まるへまる／ センターの〇〇！

― 佐々木牧恵主任の１日に密着 ―

「センターの〇〇」は、いちのせき市民活動センターのスタッフの日常をご紹介するコーナーです。第１回目は、せんまやサテライトの佐々木主任の一日を追っかけました。スタッフは普段、どこでどんな仕事をしているのか、密着取材を通じてご紹介します。

5月14日

8:50 朝の掃除

８時４５分、出勤。事務所の表のシャッターを開けてから最初に行うのは朝の掃除です。せんまやサテライトには、スタッフが事務仕事をする部屋と情報コーナーがあるホールがありますが、ホールには通りがかりのお客様がよく出入りするので、床を水拭きし、綺麗な状態にしています。

10:00 チーム会議1

いちのせき市民活動センターでは、一関市が進めている「協働のまちづくり」を地域でどのように進めていくかを定期的に話し合う、「チーム会議」に参加しています。今日１本目の会議は、室根地域のチーム会議。進捗情報の共有と、今後の展開について考えています。

12:30 ランチ

14:00 チーム会議2

昼食を済ませた後、午後は本日２本目となるチーム会議に参加。ゆっくり休む間もなく、大東の曽慶公民館へ向かいます。この地域は佐々木主任の担当ではありませんが、困った時の助けとして他のスタッフと一緒に会議に出るのも主任の務め。真剣な眼差しで会議に挑んでいます。

16:30 情報収集

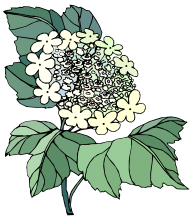
会議終了後、東磐井地域の集落支援員（協働推進課）さんと他地域の進捗状況についてお互いの情報を共有。次の動きに備えます。
この後は事務所に戻り、お客さんの対応、報告書の作成、一関市へ車の鍵の返却に行き、センター長と地域の情報共有を行い、一日を終えました。

18:00 帰宅

一日を終えて

この日は午前・午後で違う地域での会議だったので、バタバタと慌ただしく過ぎていきましたが、人と話をするのが好きなので、たくさんの人にお会いできる日はテンションが上がります！チーム会議も２年目に突入したので、お互いへの理解も深まり、会議中の談笑も日々増えています（笑）ちなみに、曽慶での会議を終えて事務所に戻ると、私のデスクに常連のＫ．Ｓさんが座っていてびっくり！せんまやサテライトは地域の人との距離が近いので、そんなサプライズもご愛嬌。たくさんの人と話をした１日となりました。

おしらせ



千厩　Hana 金！<第1回目>

地域づくり活動において、困っていることはありませんか？いつでも・だれでも・どんなことでも話せる場所があります。自由に話に花を咲かせる空間＝Hana 金！毎月第２金曜日の夜にお待ちしています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 6 月 13 日(金)
19 時～20 時 30 分
【場所】いちのせき市民活動センターせんまやサテライト
【料金】初回 100 円 2 回目以降 300 円
【問合】場所と同じ【電話】0191-48-3735

藤沢　めえ～めえ～祭り開催

館ヶ森アーク牧場では、子羊レースや羊の毛刈りショー等を行う「めえ～めえ～祭り」を開催します。かわいさ満点の子羊たちを間近で見て楽しめるイベント、必見です！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 6 月 14 日(土)～15 日(日)
10 時～18 時
【場所】館ヶ森アーク牧場 お祭り広場
【料金】入園料 500 円（一般）
【問合】館ヶ森アーク牧場
【電話】0191-63-5100

千厩　「地域づくりハンドブック」マスター講座

いちのせき市民活動センターでは、地域づくり活動に役立つ知識や手法をお届けする「地域づくりハンドブックマスター講座」を開催します。第１回目のテーマは「地域づくりとは」です。参加申込締切は、6 月 12 日です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 6 月 19 日(木)19 時～21 時
【場所】一関市役所千厩支所 ２階会議室
【料金】受講料 500 円（全４回分）
【問合】いちのせき市民活動センター
【電話】0191-26-6400

一関　いちのせき 100 万人のキャンドルナイト 2014 夏至

一関世代にかける橋では、あいぽーとを会場にキャンドルナイトを開催します。当日は、キャンドルアートや座禅ヨガ、七夕飾りを作ります。キャンドル配置をしていただけるボランティアスタッフも募集してします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 6 月 21 日(土)18 時半～
【場所】あいぽーと
【料金】無料
【問合】一関世代にかける橋
【電話】0191-23-9721

花泉　親子で学ぶ新聞教室

花泉図書館では、親子で新聞のスクラップづくり等を行う新聞教室を開催します。新聞スクラップは情報収集力・活用力・読解力等を養います。お子さんと一緒に新聞を読む楽しさを学びませんか。（※事前申込みが必要です）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 6 月 22 日(日)
13 時 30 分～16 時
【場所】花泉図書館　【料金】無料
【問合】花泉図書館
【電話】0191-82-4939

川崎　♪音楽療法で交流♪

ＮＰＯ法人アートで明るく生ぎるかわさきでは、障がいのある方の仲間づくりや地域住民との交流を目的に、♪音楽療法で交流♪を行います。歌や楽器の演奏、ゲームに挑戦し、皆で楽しい時間を過ごしましょう。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 6 月 25 日(水)
10 時～11 時半
【場所】川崎公民館　【料金】無料
【問合】ＮＰＯ法人アートで明るく生ぎるかわさき
【電話】0191-43-4733

大東　大東地域市民登山

一関市教育委員会、一関市体育協会では、福島県二本松市にある安達太良山への登山参加者を募集しています。豊かな自然を体感し共有しながら体力の保持、健康の促進を図ります。皆で楽しい夏の思い出をつくりませんか。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 6 月 29 日(日)
5 時集合　19 時 30 分体育館到着
【場所】大東体育館集合・出発
【料金】3,000 円（当日徴収）
【問合】大東体育館　【電話】0191-75-2030

室根　さつき展

一関市立室根公民館とむろね山野草の会では、一関市役所室根支所隣にある曲ろくホールにて、さつき展を開催します。さつきの魅力は多彩な花の美しさと盆栽の自然美の双方を楽しめること。ご来場をお待ちしております。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 6 月 28 日(土)～29 日(日)
9 時～16 時
【場所】一関市室根支所隣 曲ろくホール
【料金】無料　【問合】室根公民館
【電話】0191-64-2347

東山　手作り弁当をお届けします

ＮＰＯ法人ワークハウス雲では、東山地域内で毎週火曜日と金曜日に手作り弁当の配達を行っています。

お弁当は魚や季節野菜を中心にした「ヘルシー弁当（340 円）」と、肉や魚、野菜をたっぷり使った「四季彩弁当（390 円）」の２つをご用意しています。

※配達料金は一軒につき 30 円です。
※１か月単位でのご注文をお願いします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【問合】ＮＰＯ法人ワークハウス雲
【電話】090-7073-4985、0191-47-3335

今月の表紙

この写真は４月の室根山山開きで登山した時に撮影した写真です。

県内で一番早い山開きだった室根山は、晴天にも恵まれ多くの登山客が足を運んでいました。

Q&A　あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q　法人格を取得するメリットは何ですか？

A　事務所や備品の購入名義、預金口座の名義を団体名で契約できるようになります。また、法律に基づいた活動を行うことから、社会的信用が高まり、会費や寄付金を受けやすくなる。また、理念や活動内容に共感する人材の確保が期待できる等のメリットがあります。

発行■いちのせき市民活動センター　〒021-0901　一関市大町 4-29　なのはなプラザ4F　TEL0191-26-6400　Fax0191-26-6415
せんまやサテライト　〒029-0803　千厩町千厩字町 149　TEL0191-48-3735　Fax0191-48-3736
ブログはコチラ